

STELLAR を導入し、多種多様な装置からのデータを集約
患者様の様々な検査情報の一元管理を可能に



Nazca 操作風景



導入効果

採用の決め手は撮影画像の質、表示スピード、
ビューア操作機能の安定性と低コスト

先生方は、何時でも何処でも検査結果を確認する事が出来るようになりました。透視室やリハビリテーションルームでも素早く簡単に検査データや画像データを参照する事が可能となりとても重要になっています。それに伴いスタッフに検査結果の手配などをすることがなくなり、業務のスピードアップにもなりました。関係部署も手を取られることがなくなり、より専門業務に専念することが出来るようになりました。

他病院への患者紹介なども、紹介状や入退院のサマリなども作成・保存が可能となり、検査画像は CD に保存し提携病院へお渡しする事が可能となりました。



Nazca 使用端末

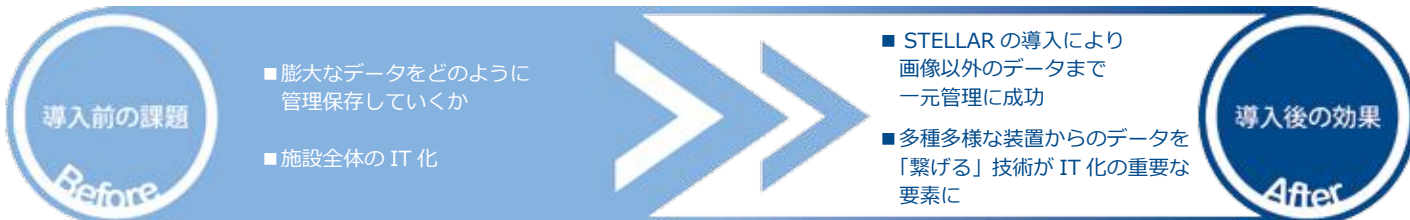
導入経緯

施設全体の IT 化に向けたプロジェクトの
一環として PACS 導入を検討

私たちの施設では平成 21 年 9 月に MR・CT 装置を更新し、平成 22 年 3 月にデジタルエコー検査装置を更新しました。更新にあたり、高性能化された最新装置の膨大なデータをどのように管理保存していくかが課題となっておりました。フィルムの保存、コストなど今後の対応・対策を考えていく上で、PACS システムの導入は今後の診療運用に必要不可欠だと判断しました。また、施設全体でも IT 化に向けた様々なプロジェクトが進行中です。

まずは、検査機器及びそれに伴う PACS システムの導入をおこなう事となりました。アストロステージの採用に至った大きな決め手は、何と言っても STELLAR だと思えます。放射線部門に関わる画像データのみでなく、院内で取り扱う様々なデータ（検査データや治療に必要なデジタル写真、紹介状など）を患者様ごとに管理保存が出来ます。参照が必要な時も全てのデータが個人別に時系列表示されることに、大きな魅力を感じて採用となりました。

また、アストロステージが得意としている「繋げる」、これは多種の装置であってもデータを集約し、一元管理を可能にするもので病院の IT 化を進めていく上でとても重要な要素となりました。



光生病院：システム導入時期 / Oct 2009



光生病院は、昭和 27 年 2 月 8 日に岡山市北区厚生町に開設されました。開設以来『慈愛と奉仕』の理念に基づき、救急医療に専念し、早くから岡山大学と連携した高度医療技術を救急に導入しております。また、高度医療に欠かせない CT、MRI、DSA を用いた画像診断を昭和 61 年より導入しており、撮像技術を駆使した臨床画像は、幾度となく画像コンテストから表彰され高い評価を得ております。

平成 8 年には、国の近代化施設整備事業を受け、21 世紀の地域に根ざした最良の医療技術と福祉サービスを提供できる病院に生まれ変わりました。198 床の病床に 50 床の介護老人保健施設や、在宅介護支援センター、訪問看護ステーションを併設した 248 床の入院、入所設備と、定員 40 名のデイケアを含む、保健・医療・福祉の機能を備えたライフサポートシステムとなり、地域でも要の施設として活動を行っております。

所在地：岡山県岡山市北区厚生町 3-8-35

病床数：一般病床 198 床

診療科：内科・呼吸器科・消化器科・外科・循環器科・泌尿器科・整形外科・脳神経外科
放射線科・神経内科・心血管外科・形成外科・リハビリテーション科
心療内科・皮膚科

今後の方針

当院では、患者様の情報を院内だけでなく、地域の関連施設とも連携し、正確に、迅速に情報を共有しあえるようなシステム作りを目指しております。今後も地域の要となる施設活動を継続していきたいと思っております。

今後の期待・要望

自由で想像力豊かな社風をいつまでも持ち続け、パイオニア・スピリッツを忘れないで医療サービスの向上に貢献する開発を行って欲しいです。また、大手メーカーにはない迅速で丁寧な小回りのきく（痒いところに手が届く）メーカーになって欲しいと思っております。

システム構成図

